

事業所名

こどもトレーニングひろば やながわ

支援プログラム (参考様式)

作成日

R6年

9月

20日

法人（事業所）理念	体験を通して成長する。								
支援方針	利用児を第一に考え支援する。								
営業時間	9時	30分	から	18時	30分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	日々の健康状態を観察し、少しの変化にも気づくことができるよう支援します。異変に気づいた場合には適切な対応を行います。生活のリズムを整える。また、生活習慣を形成することでストレスの軽減に努める。利用児の特性に応じて必要な個別のリハビリテーションを実施します。							
	運動・感覚	利用児の発達段階及び特性に配慮した視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるような遊びを通して支援します。支援時間が長時間の場合は、身体を動かしながら遊ぶことができるよう公園への外出を行います。一人一人の利用児を適切に評価し、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、筋力の維持・強化を図る。							
	認知・行動	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集し認知機能の発達を促すために制作活動や身体遊びを学習プログラムとして取り入れています。認知の特性を把握し情報を適切に処理できるような環境調整や支援者の関わり方の指導や調整を行います。感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害に対して事前に環境調整など予防策を講じ、適切行動の獲得に向けた適切な支援を行う。							
	言語 コミュニケーション	言語聴覚士の助言のもと、具体的な事物や言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促すプログラムを立案し実践します。相手のことを考えたコミュニケーション能力の獲得ができるようSSTを用いて支援していきます。利用児の発達段階を理解しコミュニケーション手段を検討していきます。							
	人間関係 社会性	遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを促していきます。一人遊びの状態から並行遊び、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びといったスモールステップでの遊びの育ちを促します。利用児自らが自発的に集団に参加し手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援します。							
家族支援	利用児に関する情報の提供と定期的な支援調整 ・子どもの発達上の課題についての気づきの促しとその後の支援 ・相談支援専門員との定期的な支援会議や支援計画の調整 ・関係者、関係機関の連携による支援体制の構築				移行支援	現在は小学校低学年を対象としているため、移行支援の機会はありませんが、今後は高学年の支援も行っていくため移行支援に向けた取り組みもしていきます。			
地域支援・地域連携	・医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関との連携・教育機関の関係者等との連携・地域支援の体制のための会議への出席・個別のケース検討のための会議への出席・自立支援協議会等への参加				職員の質の向上	事業所内外での研修へ積極的に参加する。他職種との連携を密に取り、事業所全体の質を向上します。			
主な行事等	夏休み等の長期休みは毎日イベント実施 クリスマス会や保護者参加型のイベントを実施 からだ探検隊という性教育に対するの研修会を実施								